

新しい博物館について みて・考えて・語り合うワークショップの開催結果

1 開催概要

(1) 目的

松本市基幹博物館の構想案を市民に評価していただくことで、構想策定過程への参画機会をパブリックコメントとは別に新たに創出し、新しい博物館への興味関心を高める。

(2) 参加者募集方法

市民アンケート協力者の中から、参加希望者を募集

(3) 開催日時

ア 1 日目

12月4日(日) 13時～17時

イ 2 日目

12月10日(土) 13時～17時

(4) 運営体制

ア 主催

松本市教育委員会(博物館)

イ 協力

合同会社マーブルワークショップ

株式会社乃村工藝社

2 開催結果

(1) 1 日目

ア 参加者数

13人

イ 主な意見

(ア) 収蔵について

- ・収蔵環境について、施設の狭隘化と老朽化が進行していることについて、個々の資料の劣化が進んでいるのではないかと危惧する意見が多くありました。
- ・資料の登録が未完了のものがある点について、寄付者の意向に沿い利活用するため、早急に解決しなければならないとの意見がありました。

(イ) 展示について

- ・年代順に資料が見られることを評価する意見がある一方で、全体的に内容が薄く、掘り下げられていない点に課題があるとの意見がありました。
- ・資料の劣化防止上の照度制限による館内の暗さを指摘する意見が多くありました。また、その暗さを生かした展示をすべきとの提案もありました。
- ・音声や映像を用いた展示解説や、体験型の展示を設けるべきとの提案がありました。

(ウ) サービス部門について

- ・休憩室から見える北アルプスと松本城の景観を評価する意見が多くありましたが、一方でその優れた眺望を生かし切れていないとの意見もありました。
- ・一息つけるスペース（カフェ等）やミュージアムショップの充実を求める意見がありました。

(エ) その他

- ・ユニバーサル・デザイン、バリアフリー化を求める意見が多くありました。

(2) 2日目

ア 参加者数

15人

イ 主な意見

(ア) 新しい博物館を想像する「未来新聞」の作成

- ・特に子どもを念頭におきながら、市民により積極的に利用されている博物館の姿を描く意見が多くありました。
- ・4つのグループすべてで、「体験」のフレーズが用いられていたほか、「山岳」に関しても新しい博物館の外観や展示の面で意見がありました。
- ・デジタル技術を積極的に活用した映像展示についても、多くの意見がありました。

(イ) 構想案の評価と市民提案を合わせた再評価について

- ・概ねよく練られているとの評価でした。特に、子どもの気づきや発見の喜びを伝える、(仮称)親子の博物縁については、すべてのグループで好意的評価を得ました。
- ・市民利用の場を確保することについても好意的評価を得、博物館ボランティア以外にも使えるようにすべきという追加提案もありました。
- ・建設予定地の立地もふまえて、収蔵に関して必要性を認めながらも分散管理も検討し、展示や交流など市民利用の場に施設面積を割くべきではないかとの意見がありました。
- ・全体的によくまとまっている分、松本市らしさが不足しているのではないかという意見や、新しく整備する博物館のイメージを市民と市が共有するために、参考としている博物館を挙げたらどうかという意見もありました。

(ウ) 2日間のまとめでの参加感想について

- ・「松本の博物館に行きたいと思えるものにしてほしい」、「市民が松本へ来る人に対して「城の次には博物館へ」と言えるようなものにしてほしい」といった、博物館整備に対する期待感を示す感想がありました。
- ・「いろいろな市民の意見を聞くことができ良い経験になった」、「ひとりひとりの意見の中に学ぶべきものがたくさんあった」といった感想もありました。